

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471001592
法人名	医療法人社団ピーエムエー
事業所名	グループホーム ソフィアとつか
訪問調査日	令和4年3月10日
評価確定日	令和4年5月24日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001592	事業の開始年月日	平成18年2月1日	
		指定年月日	平成18年2月1日	
法人名	医療法人社団ピーエムエー			
事業所名	グループホーム ソフィアとつか			
所在地	(245-0065) 横浜市戸塚区東俣野町959-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年3月3日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月27日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」を大切にし、日々の関わり、介助を行っている。認知症にかかった方を「認知症高齢者」としてではなく、「1人の人」として関わることを念頭に置いている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年3月10日	評価機関 評価決定日	令和4年5月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、医療法人社団ピーエムエーの運営です。同法人は、精神科の医療機関をはじめ、ソフィアグループとして、医療機関・介護老人保健施設・グループホーム・居宅支援センターを展開し、医療と介護の連携を図り、安心できる心身のトータルケアサービスの提供を目指しています。ここ「グループホームソフィアとつか」は、JR東海道線の「藤沢駅」と「戸塚駅」の間にあり、どちらの駅からもバスで20分程度の国道1号線から少し北側に入った住宅と畑の混在した静かな場所にあります。

●新たに昨年9月から赴任された管理者は、従来から継承されている3項目の理念に「その人らしさを大切に」を加え、認知症高齢者としてではなく、「一人の人」として関わることを念頭に置きながら、必要な支援を提供することを志しています。

●この2年間のコロナ禍の中、外出や地域との交流が制限されている状況下において、事業所での日常生活がマンネリ化しないよう、季節行事や誕生日会、様々なアクティビティなどのイベントを企画・実施しながら、気分転換できるよう支援しています。また、事業所のテラスや庭にお連れするなどして、季節の移り変わりを体感していただく機会も設けています。家族との面会については、家族の希望を入れ、昨年6月より、リビングの外からガラス越しに家族が利用者の顔を見る形で行っており、家族も喜んでます。一方、コロナ対策には、職員も出勤時の手指消毒や検温、勤務中のマスク着用を守り、今年の1月からは、より安全性の高い二重マスクの着用に変えるなど万全の感染防止対策を講じています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソフィアとつか
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染防止の観念から、外出等を避けていた為、外部交流が出来なかった。	この事業所の理念「明るく笑顔の絶えない環境を」「地域での交流を大切に」「入居者のペースで思いやりのある優しい言葉」に、昨年9月に赴任された新管理者は、「その人らしさを大切に」を加えて、日常のケアに取り組んでいます。10項目のPMAクレドは、各フロアに掲示し、職員の行動規範にしています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外での挨拶等、お顔をお見掛けしたらできていたが、地域の活動などへの参加は、感染防止から見送っていた。地域の行事ごとの中止もあいまって、交流は少なかった。	理念の一つにも「地域との交流を大切に」と掲げており、コロナ禍以前は地域との交流も活発に行われていたが、ここ2年は、地域の活動への参加は見送り、地域の行事も中止されているため、地域との交流は減少しています。職員の出退勤時などに近隣住民の方を見かけた際には挨拶を励行するようにしています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流のある方々への、挨拶を心掛け、認知症の方とのかかわりでも最も大切とされる、挨拶をすることが出来ている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行った、地域の方、ご家族様からの身体拘束、虐待防止に向けた意見を頂戴し、その回答を閲覧できるようにし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、年6回開催していますが、コロナ禍のため、対面での開催ができず、もっぱら書面開催となっています。現在は議事録を通常参加していただいている方々(町内会役員・民生委員・地域包括センター・家族)へ送付し、事業所の現状や活動状況、身体拘束、虐待防止に向けた取組みについて報告しています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村から、情報提供の開示等があった際には協力している。	新型コロナ感染症予防に関して、行政からの助言や通達には対応しています。横浜市や戸塚区からの情報の開示要求があった場合には協力しています。研修会・講習会の案内メールが届いた際には極力参加して、担当者顔と顔を合わせるようにしています。この1年はリモート研修が中心となっています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないために、具体的に起こり得る事例を基に、身体拘束の勉強を行っている。	身体拘束の適正化委員会は、運営推進会議の開催時に併せて行っています。身体拘束を行わないケアを実施するため、具体的に起こりうる事例などを検討し、職員の共通認識を図っています。カンファレンス会議で身体拘束マニュアルの読み合わせをしたり、自己点検シートにての振り返りの機会も設けています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、ミーティング等を介して、意見交換を重ね、虐待防止に努めている。	身体拘束と併せて事業所内研修を年2回実施し、虐待に該当する行為や虐待によって及ぼす影響について理解を深めています。また、身体拘束適正化委員会では虐待防止も取り上げ、意見交換を重ねています。毎日の午後の申し送りの際にも、日常業務中に、虐待行為にあたる可能性について話し合う機会を作り、虐待防止に取り組んでいます。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様毎に権利を持っていることを理解し、高齢者を高齢者としてではなく、支援が必要な一人の人として、考えるように統一している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、内容を一つ一つ丁寧に説明し、家族、ご本人が納得するまで、次の項目に移らず質問に答えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や、ご家族から意見があった場合（苦情等含む）は速やかに全職員へ周知し、再発防止に努めている。又、運営推進会議にて、いただいたご意見を公開している。	コロナ禍のため、家族の面会を制限していましたが、昨年の6月よりリビングの外からガラス越しに短時間で利用者と顔を合わすことを実現しています。現在は、家族からの意見や要望は電話やメールにて伺うようにしています。運営推進会議も書面開催としており、事業所の現状報告を送付しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声に耳を傾け、必要な物品など、働きにくくならないように、揃えている。	毎朝や午後の申送りの際や毎月のフロアミーティング時に職員の意見を聞いています。施設長(管理者)フロアリーダー、計画作成者の三者による会議は、必要に応じて都度開催し、職員の意見や提案を議題に上げ、意見交換した後に業務やケアに反映させています。また、個人評価シートによる自己評価も実施しており、面談時にフィードバックするとともに要望も聞いています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの評価をしっかりと行うことで、出来ている点は褒めて、さらに良くしていただけるように、声をかけ、基準に至らなかった点は、どの様に至らなかったかを説明をし、今後に繋げている。	個人評価シートの評価をしっかりと行い、半期に1回の面談で、できている点を褒め、更に良くなってもらうに声を掛け、基準に至らなかった点は、その理由を説明することで、職員自身が納得し改善につなげられるよう助言を行っています。有給休暇の使用率は高く、ワークライフバランスにも配慮しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらも、介助方法に疑問が湧いた際に、そのままにせず、ミーティング等を通し、スタッフ全体で介助の勉強をしている。	コロナ禍の中で、外部研修への参加が難しい状況ですが、午後の申送りの時間を利用し、必要時には30分程度のミーティングを開催し、職員が抱いた疑問そのままにせず、皆で話し合うなど、結論を得る実践的な研修を行うことで、職員全員の資質向上につなげています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染防止のため、外部の同業者の立ち入りは開放しておらず、当職場からも、他への派遣はしていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の～したい を形に出来るように聴き取りをしっかりと行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係の構築のため、密に連絡を取り、情報の開示や、要望にお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問リハビリや、訪問マッサージ等が必要な方への、説明及び、導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、入居者様の暮らしの場であることを理解し、一方的な介護にならないように、意思疎通を介して、関わるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への、情報共有を管理者だけでなく、日々介助に携わっている職員からも行い、ご本人と家族を繋ぐ橋になるように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、馴染みの方等の面会にも対応。はがきや手紙等、出したい希望があれば対応。ご本人宛の電報は速やかにご本人に未開封でお渡ししている。	コロナ禍で、家族や知人の面会が制限せざるを得ない中、昨年6月より家族のリビングのドア越しの面会を認めています。家族は、利用者の元気な様子を見て安心し、喜ばれています。コロナ禍以前からはがきや手紙でのやり取りをしている方もおり、利用者から出状依頼があった時には支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流が円滑に出来るように、スタッフが間に入り、お話のフォロー等をし、関わり合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様から問い合わせがあれば必要な対応をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを形に出来るように、日々の会話にも耳を傾け、意に沿える形を取っている。（パンが食べたい等）	事業所独自のアセスメントシートにて、入居時点での希望の汲み取りに努めています。利用者の日々の会話にも職員は耳を傾け、利用者の意向に沿えるよう取り組んでいます。把握した利用者の意向・要望については、申送りノートや介護記録に記入し、職員間で情報共有に努めています。食べ物に関する要望なども多く、できるだけ対応しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、環境を把握し、ご本人に合った会話等を出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方を把握し、変わりがないか、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、多職種連携を基に、本人、家族の意見を反映させ、常に最善の計画を建てれるように努めている。	介護計画の見直しは6ヶ月毎の更新を基本とし、定期的にケアカンファレンスを実施しています。介護計画作成・更新時には、多職種連携を基に利用者本人・家族の意見も反映させ、必要に応じて医療機関の意見も参考にし、現状に則した介護計画を作成・更新しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに担当を設けて、日常の記録や気づきをまとめ、情報共有をし、カンファレンス等に活かせるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や、思い等は日々変化するものであることを認識し、都度、思いに沿った計画を建てれるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物外出等にお連れする計画は立てるも、コロナウイルス感染防止の観点から断念。現状は出来ておらず。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の希望があった際は、直ぐに医師と連携を取り、スムーズに受診が出来るように構築が画一されている	同じ法人の運営しているソフィア横浜クリニックは、24時間対応可能で、必要な場合には、すぐ医師と連携し受診できます。月に2回定期的に往診に来てくれています。看護師は、同クリニックから毎週1回巡回に来ます。歯科医はすぐ近くにあることから、必要に応じて通院介助を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や健康状態を共有し、適切な医療、処置等が受けれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関である、クリニックと常に連絡を取り、日々の変化、状態についての情報共有を徹底している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る前に、ご家族、本人の意思を尊重し、その後のサービス提供を検討している。	入居時に事業所における「重度化の指針」を説明し、できること・できないことがあることを納得してもらったうえで契約を交わしています。状態の変化が生じた際には、家族・医療機関・事業所間で話し合いの場を設け、利用者にとっての最善のケアを検討し、利用者と家族の意向を尊重した対応を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通し、応急処置の勉強をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うことで、避難方法を画一している。また、災害時に近隣の協力を得れる関係を築いており、井戸水等の災害時の水確保も出来ている。	年3回の防災訓練を行っています。1回目は日中の避難訓練、2回目は消火器の使い方を中心とした訓練、3回目は夜間想定での避難訓練を実施しています。災害時に近隣の協力を得られる協力体制も構築できています。さらに、近隣住民の家にある井戸水も災害時には、事業所でも使用できる約束も取りつけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を事業所の理念にしおり、尊厳を守ることを第一としている。	新管理者は、既存の理念に「その人らしさ」を大切に する項目を理念として加え、利用者の尊厳を守る ことを第一にしています。利用者への言葉掛けや身 だしなみ・態度については、10項目の「PMAクレド」 を掲示し、日々の介護サービス提供時の基本姿勢と しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	自己決定権を尊重し、声かけを行っている。また、 可能な限り希望に添えるように支援している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過 ごしたいか、希望にそって支援している	急がず、個々のペースに合わせて介助をするように 心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	化粧がしたいなどの要望にも過去に対応実績があ る。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や 食事、片付けをしている	食材切や、盛り付け等 生活リハビリとして協力を して生活をしている。	業者のメニューや食材を活用しています。利用者の 生活リハビリとして、食材切り・盛り付け・食器拭 きなどを手伝っていただいています。毎月2回、月曜 日に「お楽しみメニューの日」として、3食利用者の 希望に応じた食事を提供するなど、利用者に喜ばれ ています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握を行い、脱水症状を起こさないように気を付けている。栄養バランスは、業者により、量等も計算されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを読み取ることで、ご本人が持つ力を最大限に活かして排泄を行えるように支援している。	排泄チェック表に排泄の記録を記入し、利用者毎の排泄のパターンを読み取る事で、利用者の持つ力を最大限に活かしてトイレでの排泄が行えるよう支援しています。排泄パターンだけでなく、食事前のタイミングや利用者の言動や表情なども勘案しての声掛けも行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等を介して、便秘にならないように日々を気を付けている。また、個々にあった対応を心掛けるため、主治医とも相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が均等には居れるように割り振りをし、入浴時間や温度もご本人の希望に沿う形を取っている。	入浴は、週2回を基本としています。利用者が均等に入浴できるよう、割り振りし、入浴予定表を活用しています。入浴時間や温度も利用者の希望に沿うよう配慮しています。入浴剤や季節を感じてもらえるようゆず湯や菖蒲湯などの季節湯も実施し、季節感を感じていただけるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご年齢や、日中の活動パターン、体調の変化を見逃さず、その時に合った休息を提供している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について主治医からご本人に説明をし、スタッフも答えられるように、どのような薬を飲んでいるかを把握している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションを通し、スタッフ本意にならず、入居者が楽しめるように提供している。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染防止のためほとんど外出をしていない。日々の中で、テラスに出て、外の気温、におい等を感じてもらおう事はしている。	現在は、新型コロナ感染防止の観点から、外出や外食行事を行っていません。事業所のテラスや庭に出て、日光浴をするとともに外の気温、匂いなどを体感していただくよう配慮しています。今後は社会情勢を考慮しながら、外出支援を再開したいと考えています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から購入希望があった際は、ご家族に確認が必要なものは確認をし、趣味嗜好品等でアレルギー等がなければ購入する支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話を掛けたい希望があった際は、対応をし、ご家族からかかってきた際は、本人にも電話口を交代して会話の機会を提供している。手紙に関しても同様に行っている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の場の為、毎日の掃除の徹底 不快感無く過ごせる環境作りをしている。介護の現場で一般的に言われる臭いについても、気をつけている。	リビングには、空気清浄機や加湿器を設置し、快適な温度・湿度設定を心掛けています。また、整理整頓や掃除を徹底し、不快感無く過ごせる環境作りに注意を払っています。特に、不快な臭いが生じないよう気を付けています。季節を感じられる装飾物（ひな人形、五月人形など）も飾っています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活とはいえど、プライバシーを守り、ご本人らしく過ごせるように支援している。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していた食器等の持ち込みについても可能であることを説明し、限りなく今までと同じようなお部屋を作って頂けるように説明している。	エアコン、照明器具、クローゼットは設置されています。入居時に、利用者が今まで使用していた家具・備品・食器類など持ち込み可能であることを説明し、今までと同じようなお部屋作りをして、居心地良く過ごせるよう支援しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全であることを画一したうえで、自立支援を行っている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ソフィアとつか

作成日

令和4年3月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の声を運営に反映させているが、全ての声に対応できていない。	職員が働きやすく、且つご入居者様の満足度が向上するように運営をしていく。	月に一回、各フロア代表と管理者が集まりミーティングを開くことで、フロアごとの要望に耳を傾ける	1年間
2	13	職員の教育に疑問を感じているスタッフが多くいる。「自分には教えられない。」「正しいのか分からない」等	既存のスタッフの教育から始め、自信を持って教育担当を務めることができる	実際に、管理、副管理を筆頭に既存スタッフの教育を実施。自信がついた、次のスタッフへと繋げていく流れを作る	1年間
3	36	未だに、スタッフ都合による介助が多く存在している。	「その人らしさ」を全てのスタッフが守れるようになる。	行動目標を定め、日々の業務の念頭に置き就労する。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム ソフィアとつか
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染防止の観念から、外出等を避けていた為、外部交流が出来なかった。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外での挨拶等、お顔をお見掛けしたらできていたが、地域の活動などへの参加は、感染防止から見送っていた。地域の行事ごとの中止もあいまって、交流は少なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流のある方々への、挨拶を心掛け、認知症の方とのかかわりでも最も大切とされる、挨拶をすることが出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行った、地域の方、ご家族様からの身体拘束、虐待防止に向けた意見を頂戴し、その回答を閲覧できるようにし、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村から、情報提供の開示等があった際には協力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないために、具体的に起こり得る事例を基に、身体拘束の勉強を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のため、ミーティング等を介して、意見交換を重ね、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様毎に権利を持っていることを理解し、高齢者を高齢者としてではなく、支援が必要な一人の人として、考えるように統一している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、内容を一つ一つ丁寧に説明し、家族、ご本人が納得するまで、次の項目に移らず質問に答えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や、ご家族から意見があった場合（苦情等含む）は速やかに全職員へ周知し、再発防止に努めている。又、運営推進会議にて、いただいたご意見を公開している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声に耳を傾け、必要な物品など、働きにくくならないように、揃えている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの評価をしっかりと行うことで、出来ている点は褒めて、さらに良くしていただけるように、声をかけ、基準に至らなかった点は、どの様に至らなかったかを説明をし、今後に繋げている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらも、介助方法に疑問が湧いた際に、そのままにせず、ミーティング等を通し、スタッフ全体で介助の勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナウイルス感染防止のため、外部の同業者の立ち入りは開放しておらず、当職場からも、他への派遣はしていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の～したい を形に出来るように聴き取りをしっかりと行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係の構築のため、密に連絡を取り、情報の開示や、要望にお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問リハビリや、訪問マッサージ等が必要な方への、説明及び、導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、入居者様の暮らしの場であることを理解し、一方的な介護にならないように、意思疎通を介して、関わるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への、情報共有を管理者だけでなく、日々介助に携わっている職員からも行い、ご本人と家族を繋ぐ橋になるように努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、馴染みの方等の面会にも対応。はがきや手紙等、出したい希望があれば対応。ご本人宛の電報は速やかにご本人に未開封でお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流が円滑に出来るように、スタッフが間に入り、お話のフォロー等をし、関わり合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様から問い合わせがあれば必要な対応をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いを形に出来るように、日々の会話にも耳を傾け、意に沿える形を取っている。（パンが食べたい等）		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、環境を把握し、ご本人に合った会話等を出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方を把握し、変わりがないか、状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、多職種連携を基に、本人、家族の意見を反映させ、常に最善の計画を建てれるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに担当を設けて、日常の記録や気づきをまとめ、情報共有をし、カンファレンス等に活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や、思い等は日々変化するものであることを認識し、都度、思いに沿った計画を建てれるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物外出等にお連れする計画は立てるも、コロナウイルス感染防止の観点から断念。現状は出来ておらず。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の希望があった際は、直ぐに医師と連携を取り、スムーズに受診が出来るように構築が画一されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や健康状態を共有し、適切な医療、処置等が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関である、クリニックと常に連絡を取り、日々の変化、状態についての情報共有を徹底している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る前に、ご家族、本人の意思を尊重し、その後のサービス提供を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通し、応急処置の勉強をしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うことで、避難方法を画一している。また、災害時に近隣の協力を得れる関係を築いており、井戸水等の災害時の水確保も出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を事業所の理念にしおり、尊厳を守ることを第一としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定権を尊重し、声かけを行っている。また、可能な限り希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急がず、個々のペースに合わせて介助をするように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧がしたいなどの要望にも過去に対応実績がある。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切や、盛り付け等 生活リハビリとして協力をして生活をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握を行い、脱水症状を起こさないように気を付けている。栄養バランスは、業者により、量等も計算されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを読み取ることで、ご本人が持つ力を最大限に活かして排泄を行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等を介して、便秘にならないように日々を気を付けている。また、個々にあった対応を心掛けるため、主治医とも相談している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者が均等には居れるように割り振りをし、入浴時間や温度もご本人の希望に沿う形を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご年齢や、日中の活動パターン、体調の変化を見逃さず、その時に合った休息を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について主治医からご本人に説明をし、スタッフも答えられるように、どのような薬を飲んでいるかを把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションを通し、スタッフ本意にならず、入居者が楽しめるように提供している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナウイルス感染防止のためほとんど外出をしていない。日々の中で、テラスに出て、外の気温、におい等を感じてもらおう事はしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人から購入希望があった際は、ご家族に確認が必要なものは確認をし、趣味嗜好品等でアレルギー等がなければ購入する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話を掛けたい希望があった際は、対応をし、ご家族からかかってきた際は、本人にも電話口を交代して会話の機会を提供している。手紙に関しても同様に行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活の場の為、毎日の掃除の徹底 不快感無く過ごせる環境作りをしている。 介護の現場で一般的に言われる臭いについても、気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活とはいえど、プライバシーを守り、ご本人らしく過ごせるように支援している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、今まで使用していた食器等の持ち込みについても可能であることを説明し、限りなく今までと同じようなお部屋を作って頂けるように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全であることを画一したうえで、自立支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム ソフィアとつか

作成日

令和4年3月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員の声を運営に反映させているが、全ての声に対応できていないわけではない。	職員が働きやすく、且つご入居者様の満足度が向上するように運営をしていく。	月に一回、各フロア代表と管理者が集まりミーティングを開くことで、フロアごとの要望に耳を傾ける	1年間
2	13	職員の教育に疑問を感じているスタッフが多くいる。「自分には教えられない。」「正しいのか分からない」等	既存のスタッフの教育から始め、自信を持って教育担当を務めることができる	実際に、管理、副管理を筆頭に既存スタッフの教育を実施。自信がついた、次のスタッフへと繋げていく流れを作る	1年間
3	36	未だに、スタッフ都合による介助が多く存在している。	「その人らしさ」を全てのスタッフが守れるようになる。	行動目標を定め、日々の業務の念頭に置き就労する。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。